

2026年度 独立行政法人地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター（病床数 395床）【1年次】

受入人数	【1年次】 1名													
	研修手当				勤務時間	休暇			当直/月	宿舎	社会保険・労働保険等			
	基本手当		賞与			時間外	休日	有給						
	1年次	2年次	1年次	2年次		1年次	2年次	1年次	2年次					
常勤	約260,000円	/	年2回	/	有	15日	平日・日直 8:30~17:15 宿直 17:15~翌8:30	15日	/	3日間	5日間	最大4回 (規定あり)	なし	健康保険 厚生年金 雇用保険 労災保険加入

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
内科	循環器・呼吸器・消化器・糖尿病内分泌代謝・血液・神経をローテーションで回り、基本的手技については指導医の指導及び監督の下で全ての手技を実地で行います。 内科研修中は放射線診断部・一般外来の研修も並行して行うことで、基本的な臨床検査能力も研修で養います。また、処方箋や志望診断書をはじめとする各種医療記録の作成や、輸液・輸血・薬物療法などの基本的治療法や療養指導の研修も含まれています。
救急科	研修期間は12週間以上を設定し、当院の救急外来などで救急患者および初診患者の初期治療に参加します。また、月に数回の日当直にも参加し、短時間で手際よく診療を進める臨床的能力を育んでいきます。 具体的目標としては、一次及び二次救命措置の実行や、他診療科や他施設への連携でチーム医療の習慣を育てることが目標です。
一般外科	研修期間は4週間以上とし、研修医は指導医の下で入院患者を10名程度受け持ちながら研修に取り組みます。研修では外傷に対する縫合や切開排膿、気管切開などの他、検査の助手や見学も行う予定です。 また、治療・管理を通じて末期患者を人間的、心理的に理解し、患者様ご自身やそのご家族の方に対する態度を身につけます。
麻酔科	「全身麻酔」という特殊な状況下で刻々と変化する患者様の容態に対しての迅速かつ正確な対応方法を学びます。 担当する患者様の疾患や手術内容を理解して術前回診を行い、指導医と麻酔計画を立案し朝のカンファレンスで発表します。 研修初日は手術全体の流れを掴み、マスク換気と気管内挿管はシミュレータを用いて事前に練習をしてから手術などに参加します。
整形外科	関節・脊椎の疾患や外傷疾患などを扱い、入院患者の担当医として診断や検査、手術後の療法なども行います。 そのため、今後到来すると予想されている超高齢化社会のニーズに合えるような医師の基本の修得も目指すことが可能です。指導医と共に病棟回診を行い、カンファレンスでは研修医が患者様の治療計画や術後経過を報告します。 年間約1,000件を超える手術件数により領域における幅広い知識や技術を症例を通じて学ぶことが可能です。

必修科目的研修ができない場合、選択可能な診療科
2年目に慶應義塾大学病院で研修をします。

○研修アピール
・内科系医師も経験する必要があると判断し、麻酔科(4週)が必修となっております。
・必修以外の期間は選択期間として研修医の希望に沿う形で研修を行い、救急医療は1年次と、2年次に分け、研修の進捗に応じたそれぞれのレベルでの研修が行える設定がされています。
○臨床研修の理念

・当院での臨床研修を経て、医師としての人格を涵養し、将来進む専門の分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁にかかる負傷、または疾病に適切に対応できるように、基本的な診療能力を身に着けることを目的とし研修を行つ。
○研修プログラム責任者からのメッセージ

当院の研修では、技術や知識、態度、学会発表などの基本事項の習得のみならず、チーム医療、地域連携の重要性も学びます。研修プログラムは研修医一人一人の希望に合わせて可能な限り柔軟に対応します。 研修は決して楽ではありませんが、前向きで意欲のある皆様をお待ちしています。
○研修医からのメッセージ

当院の研修プログラムの魅力は、充実した診療科やローテの柔軟さが挙げられると思います。 選択期間が40週と長く、自分の目標に合わせたプログラムを組むことが可能です。志望科が定まっている人も、すでに決まっている人も、1年目から必修以外の診療科を幅広く選択できるので、3年目以降の進路を視野に入れながら研修できます。
--

研修実施責任者 森本二郎

※問い合わせ先

担当部署・担当者名： 総務企画課 武川将喜

住所： 埼玉県さいたま市浦和区北浦和4丁目9番3号

TEL： 048-832-4951

E-mail： [main@saitama.icho.go.jp](mailto:main@saitama.icho.go.jp)

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項

- ・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
- ・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。